

学習指導要領		都立工芸高校 学カスタンダード
(1) 私たちの生活の大切さを自覚させる。	<p>現代社会における諸課題を扱う中で、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などについて理解させるとともに、現代社会に対する関心を高め、いかに生きるかを主体的に考察することの大切さを自覚させる。</p> <p>現代社会について、倫理、社会、文化、政治、法、経済、国際社会など多様な角度から理解させるとともに、自己とのかかわりに着目して、現代社会に生きる人間としての在り方生き方について考察させる。</p>	<p>「幸福、正義、公正」などの考え方が、現代社会の諸課題を考察するための基盤であることを知る。例えば、生命・情報・環境の問題では、様々な対立点があることを理解する。</p>
(2) 現代社会と人間としての在り方生き方	<p>ア 青年期と自己の形成</p> <p>生涯における青年期の意義を理解させ、自己実現と職業生活、社会参加、伝統や文化に触れながら自己形成の課題を考察させ、現代社会における青年の生き方について自覚を深めさせる。</p> <p>イ 現代の民主政治と政治参加の意義</p> <p>基本的人権の保障、国民主権、平和主義と我が国の安全について理解を深めさせ、天皇の地位と役割、議会制民主主義と権力分立など日本国憲法に定める政治の在り方について国民生活とのかかわりから認識を深めさせるとともに、民主政治における個人と国家について考察させ、政治参加の重要性と民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期とは、社会とのかかわり合う中で自己を形成し、心理的、社会的な自立を遂げていくなど、自己を確立する基礎を培う重要な時期であることを理解する。また、青年期の意義について、心理的離乳、第二の誕生、境界人、第二反抗期などの言葉を使って、説明できる。 ・青年期の課題として、自分らしい生き方・価値観を見付け、「自分とは何者であるか」を自覚するアイデンティティ（自我同一性）の確立があることを知る。また、自己実現につながる将来の職業生活について考察し、よりよく生きることの大切さを理解する。 ・青年期の自己形成を図る上で、社会とのかかわりが重要であることを知るとともに、社会参加が自己実現の可能性を高めることについて、具体的事例などを踏まえて理解する。 ・我が国の伝統や文化が、私たちの日常生活に様々な影響を与えていることを理解し、現代社会における伝統や文化の継承の重要性について知る。 ・社会契約説の基本的な考え方を理解し、民主政治と国家の在り方について、個人と国家の関係の視点から考察する。 ・日本国憲法が保障する基本的人権には、自由権、社会権、平等権などがあり、さらに自由権の内容として、人身の自由、精神の自由、経済活動の自由があることを理解する。 ・国民主権が民主政治の根幹であることを知り、現在の我が国の選挙制度の仕組みについて理解する。 ・我が国における平和主義の考え方について、日本国

学習指導要領	都立工芸高校 学カスタンダード
<p>ウ 個人の尊重と法の支配</p> <p>個人の尊重を基礎として、国民の権利の保障、法の支配と法や規範の意義及び役割、司法制度の在り方について日本国憲法と関連させながら理解を深めさせるとともに、生命の尊重、自由・権利と責任・義務、人間の尊厳と平等などについて考察させ、他者と共に生きる倫理について自覚を深めさせる。</p> <p>エ 現代の経済社会と経済活動の在り方</p> <p>現代の経済社会の変容などに触れながら、市場経済の機能と限界、政府の役割と財政・租税、金融について理解を深めさせ、経済成長や景気変動と国民福祉の向上の関連について考察させる。また、雇用、労働問題、社会保障について理解を深めさせるとともに、個人や企業の経済活動におけ</p>	<p>憲法前文や第9条を踏まえて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の条文を踏まえて、天皇が日本国及び日本国民統合の象徴であることや天皇が行う国事行為について理解する。 ・日本の政治制度の基本的な仕組みについて理解するとともに、内閣が国会に対して連帯して責任を負う議院内閣制を採用していることなどについて説明できる。 ・民主社会における政治参加の重要性について理解し、新聞やニュースなどを通じて、現実の政治の動きについて関心を深める。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法第13条の「個人の尊重」について正しく理解し、個人の生命・自由及び幸福追求の権利は最大限尊重されなければならないことを知る。 ・法や社会規範が、私たちの生活のあらゆる領域にかかわっており、私たちの権利を守っていることを理解する。 ・司法制度の基本的な仕組みについて理解し、我が国では、同じ事件について三回まで裁判を受けることができる三審制を採用していることについて説明できる。また、司法制度改革の一環として裁判員制度が導入されたことを理解する。 ・生命がかけがえのないものであることについて理解し、生命尊重の精神をあらゆる生活の中に生かしていくことが重要であることを知る。 ・社会生活を営む上で、自由・権利と責任・義務とは切り離すことのできない関係にあることを理解する。 ・人間は尊厳をもつかけがえのない人格として平等であり、他の人々の願いを自分の場合と同様に尊重することが必要であることを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・現代の経済社会の変容について、産業構造や人々のライフスタイルの変化に着目して説明できる。 ・市場が需要と供給をつなぐ取引の場であり、需要と供給の均衡をもたらす「価格の自動調整機能」があることを、A. スミスの「見えざる手」という言葉を使用して説明できる。 ・財政とは、政府による経済活動であり、所得税や消

学習指導要領	都立工芸高校 学カスタンダード
<p>る役割と責任について考察させる。</p> <p>オ 国際社会の動向と日本の果たすべき役割 グローバル化が進展する国際社会における政治や経済の動向に触れながら、人権、国家主権、領土に関する国際法の意義、人種・民族問題、核兵器と軍縮問題、我が国の安全保障と防衛及び国際貢献、経済における相互依存関係の深まり、地域的経済統合、南北問題など国際社会における貧困や格差について理解させ、国際平和、国際協力や国際協調を推進する上での国際的な組織の役割について認識させるとともに、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方について考察させる。</p>	<p>費税といった租税を財源として成り立ち、社会保障費や地方交付税交付金などの歳出がまかなわれていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・銀行などの金融機関が資金の融通を行うことで経済が成り立っていることや、日本銀行が発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行の三つの働きをもつことを理解する。 ・戦後の我が国において実現された高度経済成長について理解し、経済成長が社会全体に与えた影響について説明できる。 ・日本国憲法に規定された勤労の義務や労働基本権について理解するとともに、非正規雇用の増加などに代表される現実の雇用・労働問題について知る。 ・病気やけが、加齢などによる生活不安、失業・労働災害・事故などに対して、国の責任として生活の保障する社会保障制度の意義や役割を理解する。中でも医療保険と年金保険については、それぞれ国民皆保険、国民皆年金が整備されていることを理解する。 ・個人や企業が経済活動を行う上で、法的責任と社会的責任を担っていることや、私たち個人が社会生活を営むに当たり、環境保全や社会貢献に配慮した行動をとることが重要であることを理解する。 <p>・現代のグローバル社会が、人、商品、資本、情報などが国境を越えて自由に移動し、国際的な相互依存関係が深まる中で形成されてきたことを説明できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権、国家主権、領土に関する国際法上の規定や、国際平和に向けた各国の協調的な取組が重要であることを知る。特に、北方領土、竹島、尖閣諸島が我が国固有の領土であることを知る。 ・国際社会における国際法の重要性について知るとともに、国際平和の実現や国際的な人権問題の解決に向けて、国際連合や非政府組織などの果たす役割が増大していることを理解する。 ・人種や民族の違いが、宗教や言語などの問題と結び付いて地域紛争を引き起こすことがあることを知る。また、グローバル化の進展とともに、文化や宗教などの違いを越えて、人類が共生に向けた努力を行うことが重要であることを理解する。

学習指導要領		都立工芸高校 学カスタンダード
<p>(3) 共に生きる社会を目指して</p>	<p>持続可能な社会の形成に参画するという観点から課題を探究する活動を通して、現代社会に対する理解を深めさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について考察を深めさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・核兵器をめぐる現状と世界の軍縮への取組について理解するとともに、国際連合をはじめとする国際機関や非政府組織などが軍縮に取り組んでいることを知る。 ・現在の我が国の安全保障について理解するとともに、国際社会の平和と安全の維持において自衛隊が果たしている役割について知る。 ・世界的な規模で自由な経済活動が拡大していることや、国際経済問題の解決には地球規模での連携が必要であることを理解する。 ・グローバル化の進展とともに、国際的な経済の相互依存関係が深まっていることを理解し、欧州連合などの事例を踏まえて地域的経済統合の動きについて知る。 ・南北問題や南南問題などの国際的な経済問題の解決のためには、国際協調が必要であることを認識し、国際機関や非政府組織などの果たす役割の重要性について理解する。 <p>持続可能な社会の形成に参画することの重要性について理解し、「個人と社会の関係」、「社会と社会の関係」、「現役世代と将来世代の関係」のいずれかに注目して現代社会の諸課題について考察できる。</p>

学習指導要領		都立工芸高校 学カスタンダード
(1) 世界史へのいざな 世界史の舞台としての自然環境について、河川、海洋、草原、オアシス、森林などから適切な事例を取り上げ、地図や写真などを読み取る活動を通して、自然環境と人類の活動が相互に作用し合っていることに気付かせる。 イ 日本列島の中の世界の歴史 日本列島の中に見られる世界との関係や交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な事例を取り上げ、年表や地図などに表す活動を通して、日本の歴史が世界の歴史とつながっていることに気付かせる。	ア 自然環境と歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・大河流域に形成された古代文明周辺の自然環境の特色と人類の生活や活動とのかかわりに関心をもてる。 ・日本列島を訪れたり、日本列島から海外に渡ったりした使節や僧侶、商人などを通じ、世界との関係や交流の事跡に関心をもてる。 ・仏教やキリスト教など外来の宗教を通して日本と世界のつながりを理解できる。
	(2) 世界史の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文明 自然環境、生活、宗教などに着目させながら、東アジア、南アジア、西アジア、ヨーロッパに形成された諸文明の特質とユーラシアの海、陸における交流を概観させる。 イ 結び付く世界と近世の日本 大航海時代のヨーロッパとアフリカ、アメリカ、アジアの接触と交流、アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制、大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い、16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近世の日本の対応を把握させる。 ウ ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成 産業革命と資本主義の確立、フランス革命とアメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。 エ アジア諸国の変貌と近代の日本 ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状	ア ユーラシアの諸文明

学習指導要領		都立工芸高校 学カスタンダード
<p>況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の動向を扱い、19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。</p> <p>(3) ア 急変する人類社会 科学技術の発達、企業や国家の巨大化、公教育の普及と国民統合、国際的な移民の増加、マスメディアの発達、社会の大衆化と政治や文化の変容などを理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの社会の変化について、人類史的視野から考察させる。</p> <p>イ 世界戦争と平和 帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、二つの世界大戦の原因と総力戦としての性格、それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ、19世紀後期から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。</p> <p>ウ 三つの世界と日本の動向 第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立と日本の動向、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立を理解させ、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察させる。</p> <p>エ 地球社会への歩みと課題 1970年代以降の市場経済のグローバル化、冷戦の終結、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、地球社会への歩みと地球規模で深刻化する課題について考察させる。</p>	<p>について理解できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大量生産・大量消費社会の登場により、社会が大衆化したことが理解できる。 ・帝国主義諸国の抗争と日本を含むアジア・アフリカの対応について理解できる。 ・第一次世界大戦が始まった原因と性格について理解できる。 ・大戦中にロシアで社会主義革命が起こったことを理解できる。 ・国際連盟やヴェルサイユ体制・ワシントン体制の理念について理解できる。 ・世界恐慌とその対応が、ファシズムの台頭や新たな国際対立を生み出したことを理解できる。 ・米ソ両陣営の対立による冷戦の構図について理解できる。 ・アジア・アフリカの植民地支配からの解放、第三世界の形成について理解できる。 ・米ソ両国の指導力低下に伴う多極化について理解できる。 ・ドル危機や石油危機など1970年代の経済構造の転換について理解できる。 ・冷戦の終結と社会主義体制の崩壊について理解できる。 ・EUなどの地域統合の進展について理解できる。 ・世界各地で頻発している地域紛争の原因が多様で 	

学習指導要領	都立工芸高校 学カスタンダード
<p>オ 持続可能な社会への展望</p> <p>現代世界の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。</p>	<p>あることを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会の実現のためには、環境の保全、経済の開発、社会の発展をそれぞれの調和の下に進めていく必要があることが理解できる。 ・現代世界の諸課題について資料を活用して考察できる。 ・世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について、自分の考えを、討論や論述を通じて表現できる。

学習指導要領	都立工芸高校 学カスタンダード
<p>(1) 私生活の時代と歴史</p> <p>現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考える活動を通して、歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる。</p> <p>開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近現代の歴史的事象と現在との結び付きを考えるため、文化祭や修学旅行など学校行事等を通して、歴史に関心を持ち、歴史を学ぶ意義に気付くことができる。 ・開国前後の経済や文化が発展を理解できる。 ・幕藩体制の動揺、崩壊と我が国の近代化の要因の生成過程について、欧米諸国の発展とアジアへの進出を背景に理解できる。
<p>(2) 近代の日本と世界</p> <p>ア 近代国家の形成と国際関係の推移</p> <p>(ア) 近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる。</p> <p>(イ) 条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に注目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開国、明治維新を経て、近代日本が急速に形成された過程を、資本主義の発展や生活と文化などに着目して理解できる。
<p>イ 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢</p> <p>(ア) 産業革命の進行、都市や村落の生活の変化と社会問題の発生、学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>(イ) 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動揺、アジア近隣諸国との関係などに着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変動や国民生活の変化を理解できる。
<p>ウ 近代の追究</p> <p>近代における政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向が相互に深くかかわっているという観点から、産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題を設定して追究し表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を育てる。</p> <p>第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を設定した学習を通じて、近現代における政治、経済、国際環境、国民生活や文化についての諸課題を、時間軸・空間軸を用い考察できる。

学習指導要領		都立工芸高校 学カスタンダード
<p>活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる。</p> <p>(3) ア 現代日本の政治と国際社会 占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立、国際交流や国際貢献の拡大などに着目して、我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる。</p> <p>イ 経済の発展と国民生活の変化 戦後の経済復興、高度経済成長と科学技術の発達、経済の国際化、生活意識や価値観の変化などに着目して、日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる。</p> <p>ウ 現代からの探究 現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その解決に向けた考えを表現する活動を通して、歴史的な見方や考え方を身につけさせる。</p>	<p>・第二次世界大戦後の占領政策や復興について、世界情勢を通して理解できる。</p> <p>・東西関係の推移や我が国の国際社会への復帰、技術革新と経済の高度成長などに着目して、第二次世界大戦後の国際社会の動向と日本経済の復興、発展が理解できる。</p> <p>・経済や文化の国際的交流、科学技術の発展と世界の平和などに着目して、現代世界の動向と日本の課題及び役割が理解できる。</p>	